

金澤北ロータークラブ

「私の仕事」

日展は明治四十年に第一回が開催されました。この時は文部省が主催で開催し日本画、洋画、彫刻の三部門であり文展と言われしていました。そして、大正八年には帝国美術院主催(帝展)になりました。昭和十一年に再び文部省が主催(文展)した。それから戦後に工芸と書が加わりました。

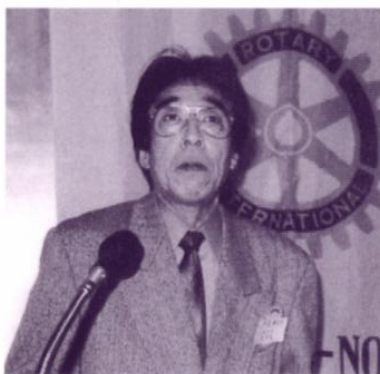
昭和三十三年に社団法人になり、昭和四十四年に改組第一回展が開催され今日に至る訳です。ですから昨年の日展三十回とは改組以来の開催数です。そんな歴史なので日展を、よく文展や帝展などと云われますが同じことです。

日展には一般の方が出品されて「初入选」します。そして、日展に十回入選すると「日展会友」になります。それから日展特選を二回取りますと「日展委嘱」となりまして日展から依頼がきます。そして年月が何年か続きまして、ようやく「審査員」をするようになります。ここで初めて「日展会員」になります。そして三回審査員をしますと日展の「評議員」になります。この評議員の方には「大臣賞」を貰える資格があります。そして大臣賞を取られた方は「芸術院賞」を貰える資格があります。次に芸術院賞と取られた方が「芸術院会員」になる資格があるわけです。そして芸術院会員になって「文化功労賞」「文化勲章」が貰えることができますようになります。だいたいこの様な階段で文化勲章を取られた方が一番上の段階になります。平成十年の第三十回展での入選率は平均五・七倍で書が十二・一倍と一番高くなっています。

私の仕事は彫刻で、私は粘土で作品を作っております。先ず粘土で作品を作り型を取って、中へプラスチックを流し込みます。彫刻の世界は、会員になりますと会場に変化を付けるために高さを変える制約があります。ちなみに、今年の高さ二メートル二十センチ、奥行き六十センチ、横幅六十センチという寸法でした。

先ず、鉄や針金をシユロ縄で心棒を作ります。それまでにモデルのポーズを決めます。そして粘土を付けていきます。その際、付けた粘土が落ちてこないようにシユロ縄でグルグル巻にしています。そして、どんどん粘土を付けていきます。モデルは一回に二時間ほど使い、私にはだいたいモデルを五十回ほど使います。そして帽子なども全て作ります。次に石膏を取ります。切金というブリキ板よりも、もっと薄い板を粘土から一センチほど出た位に入れていきます。そして、それを境にしてその上からコンプレッサーで石膏をかけていきます。その時、石膏の型が動かないように細い針金をまじりつと入れていき、それを粘土で仮押さえして石膏を塗っていきます。その時の針金が非常に硬いので、それを体の曲線に合わせていきますから、この仕事が一番時間が掛かり大変です。

こうやって出来た型を水洗いしてからビニールで覆い、三台の石油ストーブで二晩ほど乾かすと鉄のように乾燥します。それに友禅で使っている糊を塗って、その上からとろみを付けたプラスチックを塗っていきます。そして心棒を入れて、二つを合わせていきます。それから水を掛けていき中の糊を溶かしてタガネで割り出すと、中から粘土で作った同じ形のもので出て来ます。そして、次に色付けをしますが、彫刻でも絵画同様に苦労しています。これには一週間ほど時間をかけ、そうしてやっと作品が完成するわけです。(文責・荒屋克己)



野畠 耕之介氏

日展会員

平成十一年二月四日

「ロータリークラブに入会して」

平野 純

「それでは、これより例会を開始いたします。会長、点鐘をお願い致します。引き続きロータリーソング、我等の生業をご斉唱願います。」例会委員長の進行により始められる金沢北ロータリークラブの例会に参加させて頂いて4ヶ月が経ちました。ロータリークラブへの入会は、私にとって全く初めての経験なのです。例会に参加し進行も分からず歌も歌えず、どうなることかと思いましたが、ようやく最近になって慣れて参りました。

昨年6月末、金沢に転勤してからは、初めての土地での営業活動や単身赴任生活に対する不安等ある中で、毎週の例会への出席が続けられるか心配でした。ところが、例会で同席させて頂くメンバーの方々が皆さん親切にご対応くださり、むしろロータリークラブに安心して顔を出しているうちに仕事も日常生活にも馴染んでいったという気がいたします。ロータリーに入会していなければ、金沢での生活に慣れるのに、もっと時間が掛かったのではと大変感謝いたしております。

ロータリーでは親睦委員会に所属しており、先日の年忘れ会の受付をお手伝いさせていただいた位で、まだまだ皆さんのお役には立てていない状況です。これからも、ロータリークラブで諸先輩方との素晴らしい出会いとお付き合いを重ねさせていただきながら、ロータリアンとして一人前の活動が出来るように努力していきます。皆様方のご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

「奉仕との出会い」

渡邊 聰

「北上川哀歌」

高校2年か3年生の1学期の終わり頃か夏休みの頃であったと思うがバレーボール部とJRC(青少年赤十字)に所属していた同級生の島勇夫君から「おい、おまえ今度の土曜日ちょっと付き合え。」と誘われ、同じバレーボール部であった私は訳も聞かずに「よし、分かった」と、一つ返事で行ったところが松原愛育学園という軽度精薄児施設への慰問でした。当時、愛育学園は紫錦台中学の隣、北陸学院高校との間に施設が有り、小学校一年生ぐらいの小さな子から中学3年生までの大きな子供までが入所していたように思う。

今から42～43年前の昭和31～32年の頃で、当時は奉仕活動という言葉すら何となく気恥ずかしく、女学生か軟派の男子学生がするクラブ活動であるとの風潮が強い時代でした。ましてやボランティアという言葉も、まだ耳新しい頃で“赤い羽根”や“みどりの羽根”等を胸に付けることだけでも非常な勇気を必要とした時代でしたからJRCに加入する男子高校生も非常に少ないものでした。

そのような頃で、慰問メンバーが少なく困っていた彼は、どちらかと言えば硬派であった私が、その日の活動内容を知れば絶対来ないことが分かっていたので黙って誘ったのでした。そこで、いきなり「おまえ、〇〇さんと一所に桃太郎の紙芝居をやってくれ…」と言われ、一級下の丸顔でチョット可愛い女学生と二人で紙芝居と昔話を一話した後、園児達と皆んな狭い運動場へ出て“鬼ごっこ”や“隠れんぼ”をして遊んだ。

話し手の身振りや手振り、表情、そして声も大きくしたり小さくしたり、早くしたり遅くしたりと表現を変化させると、それに合わせるかのように園児達の表情や態度が著しく変化する。嬉しいときは満面笑顔となり、悲しいときは悲しそうに俯き、怖いときはペソをかき、全身で感情を表し忽ち紙芝居や昔話の主人公になってくれる。

初めは少し緊張し、何となく薄気味悪く感じていた私も、慣れてくると天真爛漫で偽る事を知らない天使のような園児達とすっかり打ち解けていた。時間がきて帰るとき、もっと居て欲しいと顔で体で全身で表した園児達。手を振りながら「きつと、また来るね」と約束もし、「きつと、また来よう」と思いながら果たせなかった私…。奉仕活動など全く無縁であった私のこれが初めての奉仕活動といえるものでした。

島君は、高校3年生のとき石川県のJRCのリーダーとして活躍しており広島県で開催されたリーダー研修会へ出席し、このリーダー研修会でのキャンプファイヤーで東北のリーダーから習った北上川哀歌を教えてくれた。後に、北上川夜曲としてマヒナスターズが編曲して歌い清楚で哀調を帯びた歌詞と曲は一躍有名になり大ヒット曲となった。

その後、彼は金沢女子短大高校の教諭から金沢東高校の教頭を務め、現在は金沢学院大学の次長として青少年の教育と就職活動に力を注いでおり、卒業生からは「厳しいけれど心の暖かい信頼出来る先生」と高い評価を得ている。

「ロータリー入会所感」

勝田 浩之

当クラブに入会させていただき早一年が経過した。過日は一年皆勤の賞を頂いたが、果たしてそれが自分自身に相応しいものなのかと、我が脚下を見つめる良い機会を得た。しかし、この一年は何が何でも100%の出席率を目指したいという当初の願いだけは達せられた訳である。これも会員諸先輩方のご指導のお陰であると素直に感謝申し上げたい。

僧侶であると同時に、裏千家の祖・千宗室の菩提寺住職ということで沢山の方々とお会いする機会を与えられる中で、もう一つの新たな世界がロータリーと言っても良からう。一年を通して多くの方々と語り、実践を共にし、酒を酌み交し、又、勇気づけられ、批判された実のある一年であったと回想する。

ロータリーは実践の哲学と言われる。佛道に於いても、この実践がなければ本物ではなく、画に描いた餅、月をさす指の如きものである。ロータリアンの根本なる“四つのテスト”を今一度確認してみると、「真実かどうか」とは佛教の真如であり、「みんなに公平か」とは平等となる。「好意と友情を深めるか」は和合であり、「みんなのためになるかどうか」は布施のころそのものである。これこそが真の道德であろう。

道德とは、佛道の道と功德の徳をとったもの。例えば、バスで席を譲るといふ行為は善事であるから親や学校の先生は子供に教える。ところが、そこで終わってしまつては道德ではない。そこで譲った本人が「譲らせていただきまして」といふ感謝の心が無ければ本当の布施(奉仕)にはならないといふのが真の道德なのである。これは社会のルールとは全く逆なのである。譲られた方がお礼を言う前に、行為を成した本人が感謝の念を込め「ありがとう」と言を発する事において、一つ一つ徳を積み、一步一步と佛のころに近づいて行くのである。

四つの金言を念頭に置き、歩いて行く所在であります故、今後とも宜しくご指導お願い申し上げます。 合掌

ネコ柳

(花言葉…平和、幸福)



「夜間例会スナップ・2月25日」



ニコニコボックス

3月4日

- 中村 駿氏 本日、講話を致します。
 - 金沢RC 蚊谷君 本日の講師の中村さんのお話が聞きたくて参りました。
 - 米澤君、畠君 本日の講師に中村氏をお迎えして。
 - 佃 君 本日は親友の中村駿さんの卓話に期待して。結婚記念日を3月29日に迎えます。家内を大切にしたいと思っています。
 - 吉田君 お陰様で入会以来16年の歳月が流れました。感無量です。
 - 松田君 3月6日は結婚記念日だそうです。改めて思い出されました。
 - 卯野君、大澤君 結婚記念日を迎えて。
- 合計 34,000円(累計 1,632,000円)

3月25日

- 中谷君 アイグリーさん、博士号取得おめでとう。今日の講話もよろしく。又、カウンセラーの感謝状をいただきました。
 - 中村君 お陰様で本年も無事誕生日を迎えました。健康に感謝しております。
 - 中田(龍)君 大変きれいな誕生日のお花いただきました。
 - 内山君 先日、思いがけず、結婚記念日を思い出させていただきました。ありがたいやら、悲しいやらの気持ちです。
 - 小間井君 先週結婚記念日のおひろめがありました。女房一筋にガンバローと思っています。
- 合計 18,000円(累計 1,650,000円)

例会変更のご案内

下記の通り例会を変更致しますのでご案内致します。

金 沢RC	4月14日(水)	『観桜会』	18:00～	「金沢国際ホテル」
金沢東RC	4月12日(月)	『春の夜間例会』	18:30～	「金沢スカイホテル」
金沢西RC	4月16日(金)	『観桜会』	18:00～	「和田屋」
金沢南RC	4月13日(火)	『観桜会』	18:30～	「ホテル日航金沢」
	5月25日(火)→5月24日(月)	『3RC合同例会』	18:30～	「金沢東急ホテル」
金沢北RC	4月15日(木)	『お花見夜間例会』	18:30～	「松魚亭」
金沢香林坊RC	4月12日(月)	『観桜会』	18:30～	「金城楼」
	5月24日(月)	『3RC合同例会』	18:30～	「金沢東急ホテル」
		※ビジター受付のみ		
金沢みなとRC	4月13日(火)	『観桜例会』	18:00～	「金沢シティモンドホテル」

〈訂正とお詫び〉

会報626号に掲載された委員会構成の中で間違いがありました。下記の通り訂正し、お詫び申し上げます。

国際奉仕委員会 副委員長 松田君 → 安宅君

第1253回例会

◆3月4日(木) はれ 12:30～13:30 松魚亭

1. 講話
金沢東山まちづくり協議会会長 中村 驍氏
「浅野川つかしん論と演舞場」
2. 出欠
出席48名 欠席25名 出席率65.75%
ビジター13名
3. 来訪者(敬称略)
金 沢RC 松井利久 大島廣靖 山本真實
 蚊谷八郎 高松 弘
金沢東RC 椎橋勇郷 堀 政尋
金沢西RC 辻 卓
金沢南RC 辻 彰 辻 弘
みなとRC 中谷宗紘
百万石RC 若宮義仁 谷伊津子
4. 幹事報告
○次年度RI会長テーマ(1999～2000)
「ロータリー2000 活動は— 堅実、信望、持続」
「ROTARY2000: ACT WITH
CONSISTENCY
CREDIBILITY
CONTINUITY」
5. 皆出席顕彰(敬称略)
16ヵ年 吉田富士夫 乙村舜吉
6. お誕生日祝(敬称略)
3日 中村三次 8日 中田龍一
11日 山上啓介 11日 勝田浩之
15日 大場勝雄 21日 本江他美夫
25日 畠 善昭 29日 汐井俊彦
30日 深山 彬
7. ご結婚記念日祝(敬称略)
2日 大垣 悟 4日 滝 憲三
6日 小間井宏尚 6日 松田忠秋
7日 上田忠信 8日 荒屋克巳
11日 小杉守男 11日 米沢真二
11日 大澤久廣 13日 内山正義
20日 鈴木 透 21日 今井嘉津夫
22日 玉田善明 23日 佐藤正寿

27日 磯野進吾 29日 佃 一成
30日 畠 善昭 31日 卯野正博

第1254回例会 夜間例会

◆3月11日(木) はれ 12:30～13:30 松魚亭

1. 講話
米山奨学生 アイグリー・ハ氏
「2年間お世話になって」
2. 出欠
出席53名 欠席20名 出席率72.6%
ビジター20名
3. 来訪者(敬称略)
高岡北RC 小島孝治 (建築資材販売)
金 沢RC 浜辺鶴志 架谷是良 大友佐俊
 織田 廣 荒木哲也 蚊谷八郎
金沢東RC 浦田 進 土川 章
金沢西RC 作田 武 岡 茂光 操川由一
金沢南RC 荒井源空 岩井重哲 山下文雄
 中島哲夫 松本 要 神谷清美
みなとRC 小堀幸穂
香林坊RC 畔地 勇
4. 幹事報告
○例会終了後、理事会開催。

理 事 会 報 告

- 3月11日(木) 出席者16名
- ◆職場親睦ボーリング大会
4月23日(金)午後6時30分
ルネスボウル サンサーカスにて
 - 3月23日(火)の炉辺会合において 再検討
 - ◆親睦家族旅行の件
5月14日(金)～15日(土)
訪問先は未定
 - ◆新会員の件
竹中健次氏(建築設計)
 - ◆その他
中途入会者の年会費を月額22,000円とする。
途中入会の方に対しては、月割計算で、会費をいただく。

会 長：浅野 弘明 S A A：中田 秀雄
会長エレト：長谷川聖人 会 計：松本 範夫
副 会 長：本岡三千郎 広報委員長：渡邊 聰
幹 事：佐藤 正寿 会 員 数：76名
副 幹 事：田中 廣嵩 クラブ設立：昭和48年10月3日

例会日：木曜日 12:30～13:30
例会場：松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882



この会報は再生紙を利用しています。